

NEWSLETTER 第15号

ボランティアセンター登録者数、ボランティア参加者数の推移

右記のグラフは当センターに登録している学生数と、活動への参加者数を過去3年間集計したものです。

登録者数は、令和5年2月現在で、557名。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一時的に減った登録者数が、昨年度ようやくコロナ前の水準に戻ってきたところ、今年度は明らかな増加がみられました。

ただ、本学在学学生数(6,958名)に対する登録率は8.0%で、昨年度の5.7%よりは増えたものの、決して多くはないのが現状です。また、1年間の延べ活動参加者数は、教職員102名、学生386名、一般市民138名で合計626名となっており、コロナ禍での感染対策のために対面での活動が制限されていることや、市民の方の参加を制限せざるを得ない事業もあったことが影響したと考えられます。

8月に発生した大雨災害により、弘前市をはじめとして様々な地域が打撃を受けました。当センターでは弘前市と連携して、市内のりんご園で大雨災害支援ボランティアを行いました。これをふまえると、機会があればボランティア活動をしたいと思っている学生は少なくないと考えられます。

「センターの存在を知らなかった」という学生もまだまだいる中、より積極的な周知活動と学生らにとって参加しやすい環境をつくることが課題となります。ボランティア登録率10.0%の水準達成を目指すとともに、子どもの居場所づくりや除雪活動などニーズの高い地域活動に、より積極的に取り組んで参りますので、今後ともご指導・ご協力の程よろしく申し上げます。



①ボランティア登録者数グラフ



②ボランティア参加者数グラフ

第2回野田村支援交流活動「野田村クリスマス会」を開催

令和4年12月24日(土)に野田村支援交流活動として「野田村クリスマス会」を開催しました。

当ボランティアセンターでは、東日本大震災発生直後から野田村へ赴き、支援交流活動を実施してきました。今回の交流は、野田村総合センターで実施され、本学教員1名、ボランティア学生6名、野田村の児童10名の計17名が参加しました。

初めに弘前市のストリートスタジオFUNKYSTADIUMのインストラクター2名によるダンスのパフォーマンスやレッスンが行われました。次に、空き瓶やスパンコール等を利用したスノードーム作りが行われました。

当センターでは、交流活動の継続的な実施によって、震災の記憶を風化させず、継承することを目的として野田村支援交流活動を継続していく予定です。

▼ボランティア活動参加者より

私は、12月24日に野田村で行ったクリスマス会に参加しました。活動の内容としては、ダンスの講師の方々によるダンスレッスンとスノードーム作りです。野田村は岩手県にあり、東日本大震災で被害を受けた場所です。高齢化は進んでいますが、現地の方々もとても元気に生活していると感じました。

今回は、そこで暮らす子どもたちを楽しんでほしいという思いで企画をしました。ダンスレッスンでは、子どもたちが難しい動きを難なくこなしていて、子どもたちの可能性を感じました。また、スノードーム作りでは、子どもたちが夢中になってスノードームの装飾を時間いっぱい楽しんでいました。パワーに満ちた子どもたちと関わることで、自分達も元気を貰うことができました。

(人文社会科学部3年 佐々木 馨子)



ボランティア学生と話す児童



ダンスを楽しむ児童



記念撮影



スノードーム作成を行う児童

ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- ・弘前市民の方・・・ **ひろさきボランティアセンター TEL：0172-38-5595**
- ・弘前大学関係者・・・ **弘前大学地域創生本部ボランティアセンター E-mail：huvvc@hirosaki-u.ac.jp**

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧ください。センターへ直接お電話等でご相談ください。(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)

- ・弘前大学地域創生本部ボランティアセンター **TEL：0172-39-3268 平日午前10時～午後3時**



HP
https://huvvc.net/



Let's Try!!
ボランティア参加学生の声をお届け



Twitter



Instagram

弘前大学地域創生本部ボランティアセンター (HUVVC) 平日午前10時～午後3時
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
TEL：0172-39-3268 FAX：0172-34-5251 E-mail：huvvc@hirosaki-u.ac.jp

第2回市民ボランティア講座『避難所運営訓練』を開催

令和4年11月26日(土)に弘前大学 学生会館3階大集会室において、第2回市民ボランティア講座『避難所運営訓練』を一般社団法人男女共同参画地域みらいねっとと共催で実施しました。

本講座は、男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営訓練を通し、弘前大学の学生や地域の方々と一緒に避難所づくりや要配慮者の支援の仕方、コロナ禍における避難者の受入体験を実施し「誰一人取り残さない」地域防災を学ぶものです。当日は学生7名、市民18名、その他学生ボランティア、スタッフの計34名が参加しました。

第1部では、一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと代表理事 小山内 世喜子 氏による講話があり、男女共同参画の視点からの避難所運営に関するポイントについて説明がありました。

第2部では、役割ごとに4つの班に分かれ、それぞれ避難所のルールづくりや、実際に避難所づくりに使われるテントやパーテーション、段ボールベッド等の組み立て、避難所運営のためのスペースづくり等を体験しました。

第3部では、高齢者や乳幼児世帯の方などの要支援者ごとに区切る形で設営された各スペースの見学、防災袋や簡易トイレの紹介が行われました。参加者からは、「いろんな事情を抱えた人たちが毎に様々な要望があり、それを踏まえた避難所のルール決めが大変だった」「今までは災害をどこか遠い存在のように思っていたが、このような機会があってよかった」などの感想が聞かれました。

最後に、小山内代表理事から、「災害時に大切なこととして「自分の命は自分で守る」ことや「互いへの思いやりを忘れない」こと、また「性別にとらわれずひとりひとりの能力を認め合い活かしあう」ことなどが挙げられ、本講座は幕を閉じました。

災害に関する知識等を継続して学ぶことが重要であるため、今後も継続して地域の方々も共に防災についての体験ができる場を作りたいと考えています。



居住スペースの設営

▼一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 小山内氏より

昨年に引き続き弘前大学ボランティアの皆さんとご一緒した「誰一人取り残さない～避難所運営訓練～」。気候変動にともない大規模災害が毎年のようにやって来る昨今、青森県も昨年8月には初の線状降水帯等による豪雨災害で県内24自治体が避難所を開設しましたが、これまで災害がほとんどなかった地域での避難所開設は次への災害対策に課題を残したようです。

弘前大学で実施した訓練は、避難所に模擬的な場面を示すことで参加者の臨場感や緊張感を助長し、避難所という状況下でジェンダー等の課題解決を図るものでした。国連防災世界会議で「ジェンダーの不平等は、社会を災害に対して脆弱にする大きな要因となる」と言われています。改めて平時におけるジェンダー平等に向けた取り組みの必要性の気づきにもなったのではないのでしょうか。

ボランティアの皆さんには、コロナ禍の避難者受入訓練では感染疑者役や簡易トイレの凝固剤のデモンストレーションなど主体性をもって実践していただきました。多様な年代、性別の人々が、意見を交わし工夫しながら作り上げた避難所は、「誰一人取り残さない避難所」になることでしょう。

(一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと代表理事
小山内世喜子 氏)



小山内氏によるオリエンテーション



総務・情報班のルールづくりの様子

学習支援事業を実施しています

当センターでは、子どもたちへの学習支援事業として、「学習支援室あつぷる～む」[子ども食堂学習支援ボランティア]をはじめ、市内外の子供達の勉強のサポートやおしゃべりなどを通し、子どもたちの居場所づくりを行うことを目的としたボランティア活動を対面で行っております。

また、ミーティングアプリ「Zoom」を利用して、弘前市内外の子どもたちや子ども食堂と大学生をつなげ、小・中学生を対象に、放課後の居場所づくりや学習時間の確保をすることを目的に「Zoomおんらin」を実施しています。

スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかがあれば学習会場だけでなく、自宅から個人での参加も可能です。

詳細や、利用希望については当センターまでお電話かメールでご相談ください。

▼ボランティア活動参加者より

私はZoomおんらinという学習支援に参加しました。これは毎週水曜日放課後、主に小・中学生とZoom上で勉強するものです。私はこの活動を李先生から勧めていただきました。

私は参加によって、人との貴重な繋がりを体験できました。最初は人に教えることに全く自信がありませんでした。私は、「私が何でも知っていない」と自分を鼓舞していました。しかし、次第に様々な参加の姿勢があることに気づきました。それは、子どもを見守り彼らが楽しめる交流をすることです。子どもの様子の確認やクイズの出題などで私も交流を楽しみました。時に対応に戸惑いましたが、試行錯誤する機会にもなりました。今後も機会があれば、参加者にとって心地良い空間を作りたいです。(人文社会科学部2年 佐藤 伶奈)

私が参加していた学習支援あつぷる～むでは、弘前市内の中高校生を対象とした学習指導等に加え、居場所づくりを目的に活動しています。対象範囲は限られていますが、その中で居場所を作ってもらえるように大学生中心で接しているため、世代の近さから安心して打ち解けてもらえています。それぞれが中高生のために自主的に動いているため、自分から打ち解けようとしてくれる子の姿を見ることで大きなやりがいを感じています。また、講義の延長でこのボランティアに参加してくれる学生さんもいるため、様々な刺激の中で活動することができ、自分自身の成長にもつながっています。学習支援という気が引けてしまう方もいるとは思いますが、それぞれの個性で中高生に向き合うため、自分のスキルアップにつながると思います。ぜひ参加されてはいいかがでしょうか？

(教育学部1年 山田 航平)

▼大学生ボランティア大募集中!

学習支援事業参加学生ボランティアを募集しています。子どもたちの学習習慣を確立するためには、毎週定期的な学習会の開催が必要となるため、多くの学生ボランティアの皆さんの協力が必要です。

本事業に興味のある方は是非、ボランティアセンターへご連絡ください。

ポケットWi-Fiレンタル、ホワイトボード等必要物品の支給を行っており、参加前にはオリエンテーションや事業見学もありますので、初めての方でも安心して御参加いただける環境を整えております。

詳細はホームページをご覧ください。



学習支援ボランティア活動の様子

オンライン共同学習会
学ぼう!Zoomおんらin

Zoomを使い、オンライン共同学習会を開催します。大学生の皆さんお母さんお父さんおじいちゃんおばあちゃんを呼んでください。Zoomで勉強のサポートやおしゃべりなどを通して、子どもたちの居場所づくりを行うことを目的としたボランティア活動を対面で行っております。

日時 毎週水曜日 16:30～19:00

Zoomテレビ会議
ZoomおんらinのZoomテレビ会議に参加して、勉強のサポートやおしゃべりなどを通して、子どもたちの居場所づくりを行うことを目的としたボランティア活動を対面で行っております。

参加費 参加費は不要です。ZoomミーティングIDとパスワードで参加できます。

お問い合わせ 352 106 4646
TEL: 393 268

弘前大学地域創生本部ボランティアセンター(弘前大学学生会館3階)
TEL: 0172-39-3268 FAX: 0172-34-5251
Email: hucv@hiroasaki-u.ac.jp URL: https://hucv.net